《巻頭言》

APACT2013の成功を祝して

かとうクリニック（愛媛県新居浜市）院長、NPO法人 日本禁煙学会理事
タバコフリー愛媛会長

加藤正隆

猛暑になった2013年夏の残暑厳しい8月18日（日）から21日（水）の4日間、幕張メッセにて第10回APACTが開催された。Presidentの島尾忠男結核予防会顧問のもと、作田学当会理事長と大島明日本禁煙推進医師歯科医師連盟会長がVice Presidentを、四師会会長がHonorary Presidentsを、宮崎恭一当会理事がSecretary Generalを務められ、結核予防会・日本禁煙学会・日本禁煙推進医師歯科医師連盟・たばこと健康問題NGO協議会が主催するという文字通り日本の禁煙推進団体の総力を結集した素晴らしい大会となった。特に、当会の理事・評議員をはじめとする多くの会員の皆様が様々なCommittee Memberに就任し、企画から査読・運営・広報等に幅広く活躍された。

Welcome Partyには秋篠宮妃殿下がご臨席下さり、各国の民族衣装を着用した方々の参加も多く、優雅で華やかな懇親の宴が催された。

本会議では、まず作田理事長がOpening Ceremonyの司会進行を務められ、創成期からずっとAPACTの発展に寄与されてきた宮崎理事がOpening Lecture 1（Dr. David Yen Memorial Lecture）としてAPACTの発展と展望について述べられた。

私は2007年に台北で開催された第8回に初参加したが、参加各国からの進んだタバコ規制の報告に驚き、2010年にシドニーで開催された第9回では“The Endgame”がトピックスになっていたことに感動を覚えた。今回もOpening Lecture 2でJudith Mackay氏が“The endgame”の講演をされたが、改めてFCTCの履行がままならずタバコ規制が遅々として進まない我が国と先進国の大きな差が身に沁みる機会となった。

今回のAPACTでは、昨年12月からプレーン・パッケージを採用して先進的な成果を挙げているオーストラリア、タバコ・パッケージの警告表示面積を世界最大の85％に義務付けたタイ、2025年までに喫煙率5％未満を目指してタバコ規制の包括的対策実施の最終段階に入ってきているニュージーランド等に大きな賞賛が表された。

我が国からは、作田理事長による“Tobacco Control in Japan. What It Is and What It Should Be.”と題した講演をはじめ、当会の理事・評議員・Scientific adviserほか多数の会員がシンポジスト・座長として登壇し、またポスター発表をして日本の現状や課題を報告した。

前回のシドニー大会では日本からの参加者もかなり増えてきていたが、今回の日本開催のおかげでAPACTが我が国の禁煙推進活動家にとって極めて身近な会議となり、今後の我が国におけるタバコ規制に大いなる力を与えてくれる絶好の機会になったことは間違いない。

とりわけ、Pre Conferenceとして史上初めてYouth Conferenceが開催されたことは誠に意義深い。柔軟で新鮮な発想で今後のAPACTや当会をリードしていく若い人材を育てるこのような機会を今後とも発展させていくことは大変重要である。

先日、2020年夏季五輪・パラリンピックの東京開催が決まったが、開催都市には完全な受動喫煙防止の実施が必要とされており、我が国に罰則付きの受動喫煙防止法や条例を根付かせる最大のチャンス到来と言えよう。

この好機を生かして、我が国のタバコ規制における閉塞状況を打破し、2016年に中国青島で開催予定の第11回APACTでは我が国のタバコ規制の発展を胸張って世界中に向けて発信できることを祈念したい。